第60回 The 60th Congress of the Kinki Physical Therapy in OSAKA, 2021

近畿理学療法学術大会 大阪2021

抄録集

“いのち輝く未来社会の理学療法デザイン”

～近畿からのイノベーション～

会期 2021年2月7日日

会場 グランキューブ大阪 & Web会場
（大阪府立国際会議場）

主催 公益社団法人 日本理学療法士協会 近畿ブロック

担当 公益社団法人 大阪府理学療法士会
一般社団法人 大阪府理学療法士会生涯学習センター

大会長 中川 法一
（増原クリニック、株式会社フルーション）

副大会長 熊﨑 大輔
（大阪府理学療法士会 会長）

副大会長 千葉 一雄
（大阪府理学療法士会生涯学習センター 理事長）

準備委員長 村西 壽祥
（大阪河﨑リハビリテーション大学）

INDEX

大会長挨拶 …… 1

参加者の皆様へ（感染対策含む） …… 2

座長・演者の皆様へ …… 5

会場への交通案内 …… 6

会場案内 …… 7

日　程　表 …… 8

大会プログラム …… 10

抄　　録

基 調 講 演 …… 26

教 育 講 演 …… 28

シンポジウム …… 46

理学療法版 SDGs パネル展示企画 …… 56

一般演題（ポスター） …… 57

運営組織・委員一覧 …… 146

大会長挨拶

第60回近畿理学療法学術大会
開催に際し

第60回近畿理学療法学術大会
大会長　中川 法一
増原クリニック
株式会社フルーション

『いのち輝く未来社会の理学療法デザイン ～近畿からのイノベーション～』

人生100年時代と言われる中で、理学療法士はどう活躍しどう生きていくのかを真剣に考えなければ、時代に取り残されてしまうのは確実ではないでしょうか。厚労省の人生100年時代構想会議の中間報告によると、100年という長い期間をより充実したものにするためには生涯にわたる学習が重要であり、高齢者から若者まで、全ての国民に活躍の場があり、全ての人が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくることが重要な課題であると書かれています。

また2015年9月の国連でのサミットの中で世界のリーダーによって決められたSDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）は、国際社会共通の目標であり、「17の目標」と「169のターゲット（具体目標）」で構成され、普遍的な目標として「誰も置き去りにしない」という約束を掲げており、人生100年時代構想の概念と通じるところが大いにあります。そこで60回を迎える大阪での近畿理学療法学術大会では、上記の提言を踏まえ、理学療法学を拠り所として理学療法士が人生100年時代に八面六臂の活躍ができるように、当面の10年後へ向けた持続可能な目標設定の提言を行うことを目的として学会企画を考えています。

わが国における理学療法士誕生からの歴史は、経験則依存型の理学療法から、科学的根拠に基づく理学療法（Evidence-based Physical Therapy, EBPT）へ概念的枠組み転換であったと言えます。表舞台で歴史を刻んできたのは紛れもなく臨床家と称される理学療法実践者であり、彼らは経験値による実証報告としての解釈や舞台裏で懸命に支えてくれた理学療法学研究者により集積されたエビデンスに基づき、最良な理学療法の提供を心がけてきました。それこそが国民への使命だと考えていたからです。

しかし近年における理学療法は根拠なき安直テクニックへの志向偏重に陥っているのではとの揶揄があります。「明日から使える」を売りにした研修事業者が闊歩し科学的根拠の希薄な理学療法風技術が蔓延している様は、基礎体力のない空け者が闇雲に大太刀を振り回しているようにしか見えません。あまたある健康食品の常套句である「これは個人の感想です」が、理学療法士の世界にまで、まかり通っているのではと激しく警鐘を打ち鳴らしたいのです。

第60回記念学会では、各領域の第一線で活躍する方々を講師としてお招きし、私たちが駆使する理学療法技術の科学的根拠を明らかにして戴きながら、10年先の在るべき姿とその道程を提示していただく予定です。またシンポジウムでは、近畿圏の有望な若手に参集していただき、臨床研究のあり方と未来について議論を交わして戴きたいと考えています。人生100年時代が、いのち輝く未来社会であるためには、理学療法をどのようにデザインし国民の健康づくりに寄与できるのかを、しっかりした目標設定の上で持続的に考え行動する必要があります。僅か一翼ではありますが、本学会を通して2030年へ向けた理学療法デザインの提言を行っていくつもりです。

参加者の皆様へ（感染対策含む）

1. 参加方法

- 本大会は新型コロナウイルス感染症拡大の予防のため、現地参加と WEB 視聴を併用したハイブリッド形式で開催いたします。
- 参加にはオンライン参加登録が必須となります。本大会の HP より参加登録をお願いいたします。

2. 参加登録受付期間

2020年12月25日（金）から
2021年1月29日（金）24：00まで

3. 参加登録

参加登録費	参 加 費
近畿ブロック理学療法士会員	1,500円
日本理学療法士協会会員	1,500円
他職種会員（医療・福祉関係会員）	3,000円
会員外	8,000円
学生（大学院生は除く）	1,000円

※オンライン登録によるクレジットカード決済、コンビニ決済をご利用いただけます。

※参加登録完了後、クレジットカード決済を選択された方には、領収書と名札（現地参加用）を参加登録完了メールに添付してお送りいたします。
コンビニ決済を選択された方には、入金確認後に別途領収書と名札をお送りいたします。

※ WEB 視聴用の ID とパスワードは会期1週間前頃に登録されたアドレスへメール配信を予定しております。

4. 本学会における新型コロナウイルス感染症拡大への対応

現地開催について、本学会準備委員会では政府、大阪府、関係諸機関等から発信される新型コロナウイルス感染症に関連する最新かつ正確な情報を収集し、予防対策の実施を徹底いたします。

現地会場にご参加いただく皆様におかれましては、安心してご参加いただくために、ご自身の体調管理、手洗い励行やマスク着用など個人での予防対策を必ず実施していただくとともに、会場運営上の予防対策にご協力いただきますようお願い申し上げます。

感染予防対策を講じた運営となりますことからご不便、ご負担をおかけすることもございますがご理解、ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、感染症の拡大状況によっては完全 WEB 開催に変更となる可能性もございます。詳しくは学会ホームページにてご確認ください。

5. 感染症の拡大予防に対するご協力のお願い （※7ページの会場案内図をご参照ください）

現地会場にご参加いただく皆様におかれましては、以下の内容について遵守していただきますようご理解とご協力をお願いいたします。

【会期前】

- 事前に「新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）」のインストールと「大阪コロナ追跡システム」の QR コード（学会会場に掲示）ご登録をお願いいたします。
- 体調が優れない方、学会開催前より 14 日以内に渡航歴がある方は来場をご遠慮ください。

【会期当日・学会会場（10階）】

- 学会参加中に万が一、体調に異変を感じた方は速やかにお近くの学会運営委員にお声かけください。
- 学会会場入場時に顔認証型体温測定システムを用いた検温、マスク（不織布推奨）着用の確認をさせていただきます。お並びの際は間隔をとっていただきます。
- マスクは常時着用し、手洗いや手指消毒の励行をお願いいたします。
- 通路などのスペースに留まって多数で談話することはご遠慮願います。
- 3密の回避にご協力お願いいたします。

【講演会場（1001～1003）・パネル展示会場（1004～1007）・フリースペース会場（1009）】

- 各会場において、出入口を定めています。出入口以外の扉からの出入りはご遠慮願います（パーテーションで出入りを制限しています）。
- 各会場の出入口にアルコール消毒液を設置しています。出入りの際は必ず消毒をお願いいたします。
- 各会場の入室者数を席の配置（距離を確保）と運営委員の誘導で管理しています。満席の場合は入室を制限させていただく場合がございますのでご了承願います。
- 学会会場内での食事は禁止とさせていただきます（ランチョンセミナーはありません）。
- フリースペース会場（1009）においては、原則談話禁止とさせていただきます。
- 学会運営委員により学会会場内を巡回させていただきます。感染予防についてご協力お願いのお声がけすることもございますがご了承願います。
- 質疑の際は所定のマイク設置位置までご移動をお願いいたします。マスクは着用したままご発言ください。お一人の質問ごとにマイクを清拭消毒します。

6. 現地参加について

- 現地での参加を希望される方は、参加登録時に「現地参加を希望する」を選択してください。
- 入金確認後にお送りする名札をご自身で印刷し、必ず会場へご持参ください。名札の確認ができない方は学会会場への入場をお断りする場合がございます。
  尚、A4サイズで印刷いただきますと、名札が名刺サイズで出力されます。
- 会場での3密を回避するため総合受付は設置しておりません。
- 学会会場（10階）入場前、エレベーター乗り降り場にて顔認証型体温測定システムを用いた検温と名札の確認をさせていただきます。
- 検温終了後、同じ場所（エレベーター乗り降り場）でネームホルダーをご用意しておりますので、名札を入れてご着用ください。
- クロークは設置いたしませんので、所持品はご自身で管理してください。
- 会期前に QR コードをメール配信いたします。講演会場に出入りされる際には、QR コードを出入口付近に設置する QR コードリーダーにかざしてください。

- 各会場におけるカメラ・ビデオ撮影（カメラ付き携帯電話を含む）・録音等は講演者や発表者の著作権保護や対象者のプライバシー保護のため、禁止させていただきます。
- 各会場内ではスマートフォン・携帯電話などの音の出る機器は必ず電源を切るか、マナーモードでご使用ください。プログラム中の通話は禁止させていただきます。
- 緊急、非常時に備えて必ず各自で非常口のご確認をお願いします。
- 新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、講演ごとに人数制限を設ける場合がございます（参加登録時の聴講予定講演の選択は参加人数を把握するためのものです）。人数制限が発生したとしても選択いただいた講演以外の講演に参加することは可能です。また、WEB 視聴用としてフリースペース（1009・Wi-Fi 環境完備）を設けています。人数制限の有無についてはホームページにてアナウンスいたします。
- Wi-Fi 設定については以下となっています。

  SSID：FREE-OICC　　PASSWORD：grandcube

7. WEB 視聴について

- 会期1週間前頃に発行する WEB 視聴用の ID とパスワードにて視聴サイトへログインいただきます。
- 質疑応答は視聴画面上のチャット機能で行います。
- 動画の視聴は多くのデータ転送を伴うため、できる限り PC でのインターネット回線でご視聴ください。スマートフォンやタブレットで閲覧する際に、通信速度の制限で動画の表示が遅くなる可能性もあるので、できる限り PC での視聴を推奨いたします。
- 携帯等のモバイルデバイスは、文字化け等が起きる可能性がございます。
- iPad 等のタブレットは、最新の OS でないと上手く動作しない可能性がありますので、ご利用の際は Google Chrome もしくは Safari でご視聴ください。
- 詳細は後日お送りする「参加者用マニュアル」にてご案内いたします。

8. 生涯学習ポイント

オンライン参加登録の際に申請してください。

① 現地参加の場合

各会場入口付近に設置する QR コードにて入退室記録を管理します。

② WEB 視聴の場合

WEB 講演ページへの入退室のログにて管理します。

9. 新人教育プログラム単位認定

本学術大会では下記基調講演・教育講演への参加で新人教育プログラムの単位が認定されます。

- 基調講演　：C-7　講師：木村 貞治（信州大学）（9：40～10：40）
- 教育講演1：C-1　講師：森岡　 周（畿央大学）（10：50～11：50）
- 教育講演2：C-2　講師：大工谷 新一（兵庫医療大学 研究員）（10：50～11：50）
- 教育講演3：C-2　講師：松原 貴子（神戸学院大学）（12：30～13：30）
- 教育講演4：C-1　講師：内田　 学（東京医療学院大学）（12：30～13：30）
- 教育講演5：C-3　講師：野村 卓生（関西福祉科学大学）（13：40～14：40）
- 教育講演6：C-3　講師：高倉 保幸（埼玉医科大学）（13：40～14：40）
- 教育講演7：C-5　講師：池添 冬芽（京都大学大学院）（14：50～15：50）

• 教育講演8：C-7　講師：日髙 正巳（兵庫医療大学）（14：50～15：50）
• 教育講演9：C-7　講師：梶村 政司（有限会社アフェクシー）（16：00～17：00）

① 現地参加の場合

• 各会場出入口付近に設置する QR コードリーダーにて入退室記録を管理します。
• 不正な履修記録は認めません。
• QR コードリーダー設置場所には学会運営委員を配置していますので不明な点などございましたらお声かけください。
• 新プロ単位認定については遅刻、早退は認めません。また、同一時間帯の2つの教育講演を登録することはできません。
• 同会場で連続した講演を受講する場合、再度入室いただく必要はございません。入室から退室までの時間に含まれる講演が単位認定対象となります。
• 単位認定には登録事務局より配信する QR コードが必要です。QR コードがない場合は単位認定できませんのでご注意ください。

② WEB 視聴の場合

• 新プロ単位認定については、遅刻、早退は認めません。対象 WEB 講演ページへの講演開始時点の入室のログ、講演終了後の視聴証明登録作業にて視聴管理します。講演途中からの視聴参加、講演終了後の視聴証明登録作業不備には新人教育プログラム単位が付与されませんのでご注意ください。
• 同時間帯で複数講演がある場合、ポイント申請できるのはいずれかの講演1つのみです
• 複数の機器を用いて同時間帯の講演を両方視聴した場合も、参加登録時に申請した講演を単位（ポイント）付与の対象とします。
• 詳細は後日お送りする「参加者用マニュアル」にてご案内いたします。

10. オンデマンド配信

• 会期終了後、シンポジウム、セレモニー、一般演題をオンデマンド配信いたします。

※配信期間は2021年2月末までを予定しております。

座長・演者の皆様へ

1. 基調講演・教育講演の講師・座長の皆様へ

• 演台と座長席には飛沫防止板を設置いたします。
• 講演ごとにマイク、PC キーボード、ポインター、演台などは消毒いたします。
• 詳細は別途ご案内をお送りいたします。

2. 一般演題　座長・演者の皆様へ

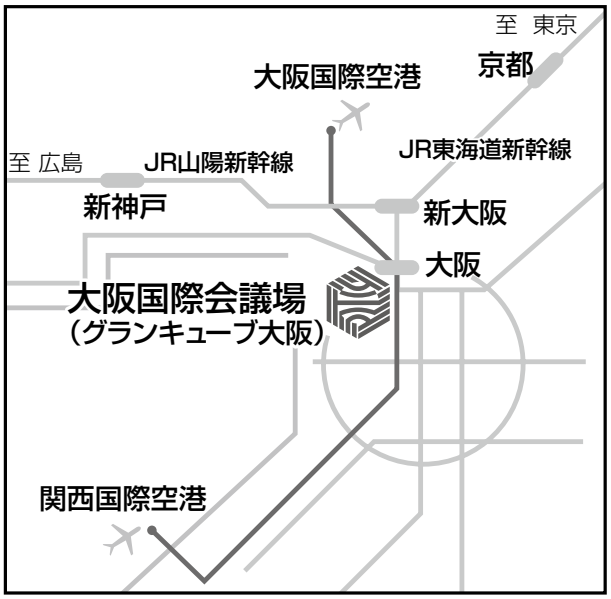
• 演者の皆様はすでにお送りされている「一般演題ポスター作成要綱」をご参照の上、ポスターをご提出ください。
• 詳細は後日お送りする「座長・演者用マニュアル」にてご案内致します。

会場への交通案内

大阪国際会議場
（グランキューブ大阪）

〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3番51号
TEL: 06-4803-5555（代表）　FAX: 06-4803-5620

■ 空港・新幹線より



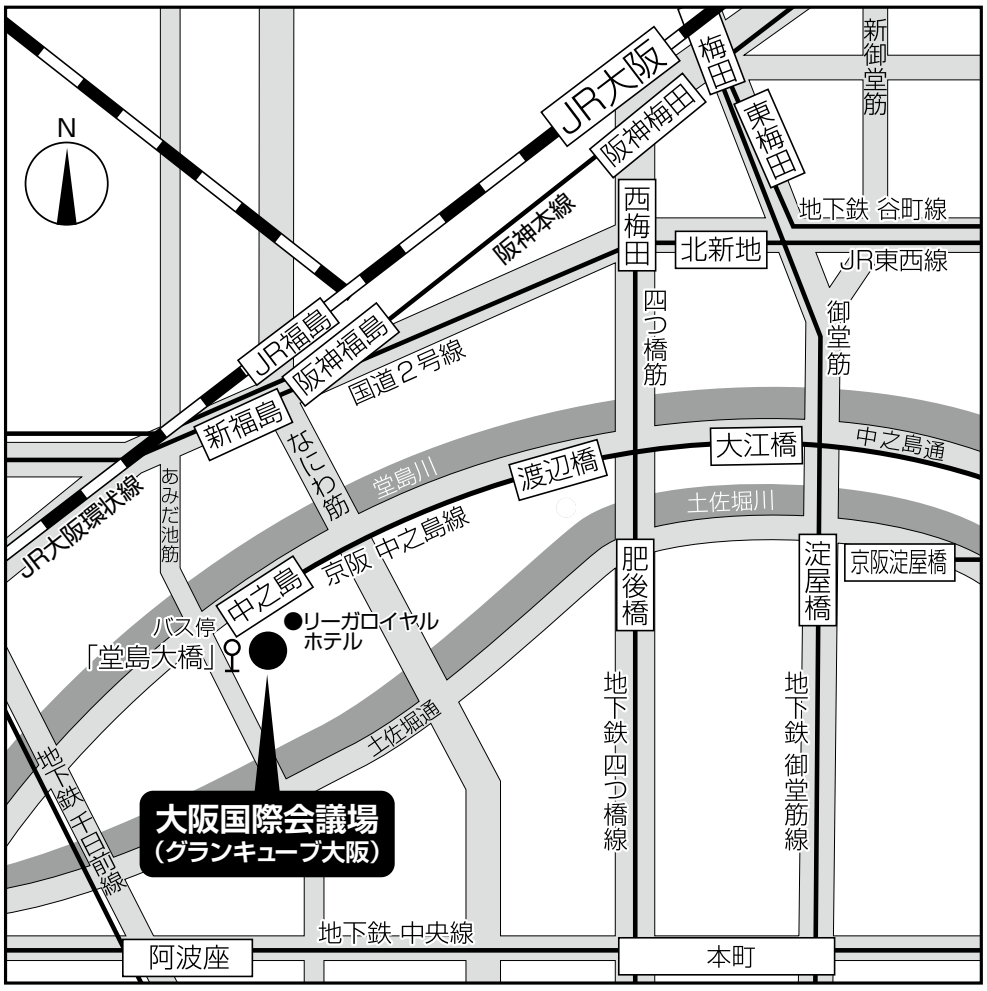
電　車

- 京阪電車中之島線「中之島（大阪国際会議場）駅」（2番出口）すぐ
- JR大阪環状線「福島駅」から徒歩約15分
- JR東西線「新福島駅」（3番出口）から徒歩約10分
- 阪神本線「福島駅」（3番出口）から徒歩約10分
- 大阪メトロ「阿波座駅」（中央線1号出口・千日前線9号出口）から徒歩約15分

バ　ス

- JR「大阪駅」駅前バスターミナルから、大阪シティバス（53系統 船津橋行）または（55系統 鶴町四丁目行）で約15分、「堂島大橋」バス停下車すぐ

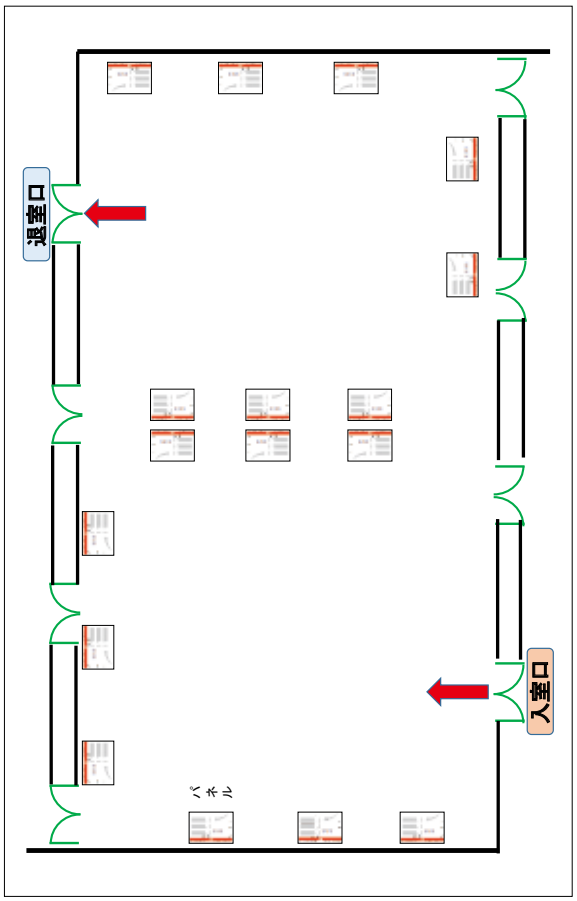
■ 周辺アクセス



会 場 案 内

パネル展示会場

1004・1005・1006・1007配置図



日 程 表

2021年 2月7日㈰

第1会場 1003	第2会場 1001～1002	パネル展示 1004～1007	現地WEB視聴会場 1009	WEB会場 オンデマンド	WEB会場 ポスター発表
					一般演題公開期間 2月6日㈯12:00～2月28日㈰18:00 質問受付期間 当日のみ
9:30～ 開会式		9:00～16:00 パネル展示	9:00～17:30 現地WEB視聴会場		9:30～質問受付開始
新プロ単位：C-7 社会貢献 9:40～10:40 基調講演 EBP 理学療法の臨床判断のパラダイムにおけるイノベーションを目指して 座長：中川 法一 講師：木村 貞治					ポスター閲覧
新プロ単位：C-1 神経系 10:50～11:50 教育講演1［神経］ 学際的研究から脳卒中理学療法を展望する 座長：松田 淳子 講師：森岡 周	新プロ単位：C-2 運動器 10:50～11:50 教育講演2［運動器］ 運動器疾患に対する理学療法の現状と未来 座長：境 隆弘 講師：大工谷 新一			10:40～ シンポジウム 臨床研究の展望 座長：鈴木 俊明 シンポジスト：牧浦 大祐 西村 圭二 峯玉 賢和 石橋 雄介 浅野 大喜 公開期間：2月7日㈰10:40～2月28日㈰18:00	
					11:50～12:30 質疑応答コアタイム
新プロ単位：C-2 運動器 12:30～13:30 教育講演3［痛み］ 慢性疼痛の治療革新 ～治療発展のための課題と持続可能な目標～ 座長：中川 泰慈 講師：松原 貴子	新プロ単位：C-1 神経系 12:30～13:30 教育講演4［嚥下］ 摂食・嚥下理学療法の考え方 ～現状の課題と理学療法士が果たすべき使命～ 座長：加藤 紀仁 講師：内田 学				ポスター閲覧
新プロ単位：C-3 内部障害 13:40～14:40 教育講演5［代謝異常］ これからの10年 糖尿病理学療法の発展における課題と希望 座長：尾谷 寛隆 講師：野村 卓生	新プロ単位：C-3 内部障害 13:40～14:40 教育講演6［がん］ がんの疾病構造と医療情勢の変化、多死社会への移行に対応したがん理学療法 座長：奥野 大輔 講師：高倉 保幸				
新プロ単位：C-5 地域 14:50～15:50 教育講演7［地域］ 高齢者に対する根拠に基づいた運動療法 ～理学療法士に求められる視点と課題～ 座長：加藤 良一 講師：池添 冬芽	新プロ単位：C-7 社会貢献 14:50～15:50 教育講演8［教育］ 10年後の理学療法教育のあり方 ～臨床現場に立たせる責任、社会の変化に対応していく義務～ 座長：射場 一寛 講師：日髙 正巳				16:00 質問受付終了
新プロ単位：C-7 社会貢献 16:00～17:00 教育講演9［スポーツ支援］ スポーツ領域に理学療法士が関わる意義 ～10年後のスポーツ理学療法士像～ 座長：田篭 慶一 講師：梶村 政司					ポスター閲覧
17:00～ 次期大会長挨拶・閉会式					17:00 演者回答終了

大会プログラム

基 調 講 演

教育講演１［ 神経 ］

教育講演２［ 運動器 ］

教育講演３［ 痛み ］

教育講演４［ 嚥下 ］

教育講演５［ 代謝異常（糖尿病）］

教育講演６［ がん ］

教育講演７［ 地域（高齢者への運動療法）］

教育講演８［ 教育 ］

教育講演９［ スポーツ支援 ］

シンポジウム

理学療法版 SDGs パネル展示企画

一般演題（ポスター）

基調講演・教育講演・シンポジウム
理学療法版 SDGs パネル展示企画

2021年2月7日㊐

基調講演　9：40～10：40　　第1会場（1003）　LIVE 配信①

座長：中川 法一（増原クリニック）

理学療法の臨床判断のパラダイムにおけるイノベーションを目指して

木村 貞治　　信州大学 医学部保健学科 理学療法学専攻 教授

教育講演1［ 神経 ］　10：50～11：50　　第1会場（1003）　LIVE 配信①

座長：松田 淳子（大阪行岡医療大学）

学際的研究から脳卒中理学療法を展望する

森岡 周　　畿央大学 ニューロリハビリテーション研究センター センター長

教育講演2［ 運動器 ］　10：50～11：50　　第2会場（1001～1002）　LIVE 配信②

座長：境 隆弘（大阪保健医療大学）

運動器疾患に対する理学療法の現状と未来

大工谷 新一　兵庫医療大学 リハビリテーション学部 研究員

教育講演3［ 痛み ］　12：30～13：30　　第1会場（1003）　LIVE 配信①

座長：中川 泰慈（市立吹田市民病院）

慢性疼痛の治療革新
～治療発展のための課題と持続可能な目標～

松原 貴子　　神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 理学療法学科 教授

教育講演4［ 嚥下 ］ 12：30～13：30　　第2会場（1001～1002）　LIVE 配信②

座長：加藤 紀仁（緑風会病院）

摂食・嚥下理学療法の考え方
～現状の課題と理学療法士が果たすべき使命～

内田 学　　東京医療学院大学 保健医療学部リハビリテーション学科
理学療法学専攻 准教授

教育講演5［ 代謝異常（糖尿病）］ 13：40～14：40　　第1会場（1003）　LIVE 配信①

座長：尾谷 寛隆（大阪刀根山医療センター）

これからの10年　糖尿病理学療法の発展における課題と希望

野村 卓生　　関西福祉科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科
理学療法学専攻 教授

教育講演6［ がん ］ 13：40～14：40　　第2会場（1001～1002）　LIVE 配信②

座長：奥野 大輔（株式会社 フルーション）

がんの疾病構造と医療情勢の変化、
多死社会への移行に対応したがん理学療法

高倉 保幸　　埼玉医科大学 保健医療学部 理学療法学科 教授

教育講演7［ 地域（高齢者への運動療法）］ 14：50～15：50　　第1会場（1003）　LIVE 配信①

座長：加藤 良一（大阪市立大学医学部附属病院）

高齢者に対する根拠に基づいた運動療法
～理学療法士に求められる視点と課題～

池添 冬芽　　京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 准教授

教育講演8［ 教育 ］ 14：50～15：50　　第2会場（1001～1002）　LIVE 配信②

座長：射場 一寛（清恵会第二医療専門学院）

10年後の理学療法教育のあり方
～臨床現場に立たせる責任、社会の変化に対応していく義務～

日髙 正巳　　兵庫医療大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 教授

教育講演9［ スポーツ支援 ］ 16：00～17：00　　第1会場（1003）　LIVE 配信①

座長：田篭 慶一（増原クリニック）

スポーツ領域に理学療法士が関わる意義
～10年後のスポーツ理学療法士像～

梶村 政司　　有限会社アフェクシー 代表取締役

シンポジウム［ 臨床研究の展望 ］ 10：40～　　WEB 会場　オンデマンド配信

座長：鈴木 俊明（関西医療大学大学院）

公開期間：2月7日（日）10：40～2月28日（日）18：00

運動器疾患に対する理学療法の現状と未来

牧浦 大祐　　神戸大学医学部附属病院 リハビリテーション部

臨床現場で研究が行える環境を築くための工夫

西村 圭二　　市立長浜病院 リハビリテーション技術科 主査

当院脊椎ケアセンターでの臨床研究

峯玉 賢和　　和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 リハビリテーション科 副主査

環境の強みを活かした研究テーマの見つけ方とアウトプットすることの意味

石橋 雄介　　秋津鴻池病院 リハビリテーション部 係長

論文を読み、“真似る”ことで研究はできる

浅野 大喜　　日本パブテスト病院 リハビリテーション室 室長

領　域	アドバイザー	所属施設
1　EBP	木村 貞治	信州大学
2　神経	森岡 周	畿央大学
3　運動器	大工谷 新一	兵庫医療大学 研究員
4　痛み	松原 貴子	神戸学院大学
5　嚥下	内田 学	東京医療学院大学
6　代謝異常（糖尿病）	野村 卓生	関西福祉科学大学
7　がん	高倉 保幸	埼玉医科大学
8　地域（高齢者への運動療法）	池添 冬芽	京都大学大学院
9　教育	日髙 正巳	兵庫医療大学
10　スポーツ支援	梶村 政司	有限会社 アフェクシー
11　小児	藪中 良彦	大阪保健医療大学
12　物理療法	生野 公貴	西大和リハビリテーション病院
13　呼吸循環器	呼吸　堀江 淳	京都橘大学
	循環　田原 將之	東宝塚さとう病院
14　医療福祉工学（義肢）	長倉 裕二	大阪人間科学大学
15　精神・心理	加賀野井 聖二	芸西病院
16　管理	岩田 健太郎	神戸市立医療センター中央市民病院
17　産業	岡原 聡	大阪急性期・総合医療センター

パネル作成：特別企画部

部長　金澤 壽久　大野記念病院
境 隆弘　大阪保健医療大学
加藤 紀仁　緑風会病院
田篭 慶一　増原クリニック
山口 裕之　フジタ病院
岩下 篤司　大和大学
奥野 大輔　株式会社 フルーション
中川 泰慈　市立吹田病院
山根 好史　関西医科専門学校

一般演題プログラム（ポスター）

公開期間：2月6日（土）12：00～2月28日（日）18：00

質問受付：2月7日（日）9：30～16:00［演者回答終了 17：00］
質疑応答コアタイム：2月7日（日）11：50～12：30

基礎1セッション

座長：谷埜 予士次（関西医療大学）

1-1 筋トーヌス計測装置によるトルクー角度関連指標に基づく痙縮評価の妥当性

小野 ゆかり　関西リハビリテーション病院

1-2 手指対立運動の運動イメージが脊髄神経機能の興奮性に及ぼす影響
―イメージ統御可能性との関連性について―

前田 剛伸　神戸リハビリテーション福祉専門学校 理学療法学科

1-3 急性期延髄外側梗塞例の臨床的特徴と機能転帰についての検討
―NCVC Lateropulsion study―

鎌田 将星　国立循環器病研究センター

基礎2セッション

座長：大住 倫弘（畿央大学大学院）

2-1 若年健常女性の Body Mass Index と安静時・AT 時における血圧との関連

宮本 拓哉　京都田辺記念病院

2-2 健常若年者における呼気ガス分析器と3軸加速度内蔵活動量計で計測された
活動量の基準連関妥当性の検討

志賀 海斗　城山病院

2-3 運動負荷後の端座位での頸静脈所見出現に関連する因子の検討
～ HFrEF 群と HFpEF 群での検討～

笠井 健一　パナソニック健康保険組合 松下記念病院 診療技術部 リハビリテーション療法室

神経1セッション

座長：青木 修（四條畷学園大学）

1-1 術後補足運動野症候群により一過性に左下肢の重度運動麻痺を呈した症例

近藤 遥奈　村田病院

1-2 左被殻出血により右上下肢重度片麻痺を呈した患者に対し、
トイレ動作自立を目指した一症例

西澤 礼　森之宮病院 理学療法科

1-3　腰部脊柱管狭窄症術後創部感染を引き起こし座位困難になった一症例
―Force-Touch による座位への検討―

中西 祥太　武田総合病院

神経2セッション

座長：前岡 浩（畿央大学）

2-1　LSVT®BIG の実施者の運動機能全般及び自己効力感の治療効果についての検証

馬場 道孝　医療法人社団 京都大原記念病院

2-2　パーキンソン病におけるサルコペニア病期分類と身体機能との関連性

浦 慎太朗　北野病院

2-3　重度起立性低血圧を呈し治療に難渋した Parkinson 病患者の一症例

谷口 領　みどりヶ丘病院

神経3セッション

座長：野添 匡史（甲南女子大学）

3-1　全失語を伴った重度運動麻痺症例に対するウェルウォークを用いた
急性期リハビリテーションの報告

西田 朋子　京都第一赤十字病院

3-2　当院脳卒中リハビリテーションチームの取り組みと現状報告

山中 裕貴　佐野記念病院

3-3　脳卒中患者における自力歩行に必要な下肢運動能力の検討：後ろ向き研究

生野 公貴　西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部

神経4セッション

座長：中村 潤二（西大和リハビリテーション病院）

4-1　回復期リハビリテーション病棟における脳卒中片麻痺患者の
退院時の Phase angle と歩行自立度との関係

辻中 椋　医療法人康生会 泉佐野優人会病院

4-2　脳出血を既往にもつ Marchiafava-Bignami 病患者に対して、
理学療法介入をした1症例

田村 將悟　脳神経外科日本橋病院

4-3　既往に脊髄小脳変性症を有した腰椎すべり症・腰部脊柱管狭窄症術後の症例に対し転倒回避を目指した介入報告

西尾 政春　森之宮病院 理学療法科

神経5セッション

座長：脇田 正徳（関西医科大学香里病院）

5-1　急性期軽症外傷性脳損傷患者の Mini-Balance Evaluation Systems Test を用いたバランス機能の特徴

布谷 麻衣子　大阪急性期・総合医療センター リハビリテーション科

5-2　脳卒中患者における回復期リハビリテーション病棟退院時の歩行自立度と入棟時の筋内脂肪量・筋量との関連

室家 将希　貴志川リハビリテーション病院

5-3　回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の心疾患併存の有無に伴う FIM 利得への影響

小松 健矢　医療法人康生会 泉佐野優人会病院

神経6セッション

座長：増田 知子（千里リハビリテーション病院）

6-1　急性自律性感覚性ニューロパチーにより立位困難を呈した症例に対する長下肢装具からの段階的な装具療法経験

中村 志帆　関西リハビリテーション病院 リハビリテーション部

6-2　脳卒中左片麻痺患者における装具選定の一考察

田中 佑季　西宮協立リハビリテーション病院

6-3　麻痺手の機能を日常生活に転移する患者教育を行った一症例

竹内 綜汰　さくら会病院

運動器1セッション

座長：木下 和昭（四條畷学園大学）

1-1　アキレス腱断裂術後の足関節底屈筋力強化運動に着目した一症例

山下 弘晃　北出病院

1-2　外反母趾患者の術前・後の立位および歩行における足底圧

原井 信幸　洛西シミズ病院 リハビリテーション課

1-3　右下腿デグロービング損傷後に分層植皮術・遊離皮弁術を行い、
足関節背屈の可動域改善に難渋した症例

饒波 咲野　神戸市立医療センター中央市民病院

1-4　足関節三果骨折術後、しゃがみ込み動作獲得に難渋した一症例
～足根管・三角靱帯に着目して～

松野 諒平　河内総合病院

運動器2セッション

座長：徳田 光紀（平成記念病院）

2-1　橈骨遠位端骨折術後における ADL 及び機能障害の経時的変化

高橋 佑生　大東中央病院

2-2　ギプス固定除去後に手関節尺側部痛が出現した三角骨骨折症例の理学療法経験
～エコーでの短小指屈筋の動態に着目して～

川上 真由　京都下鴨病院 理学療法部

2-3　僧帽筋下部に対する段階的 exercise の検討

小林 陣大　行岡病院 リハビリテーション科

2-4　抗重力位での自動運動を長期間制限された肩甲骨関節窩骨折患者の
前額面における肩甲骨位置についての一考察

森田 裕介　関西電力病院 リハビリテーション部

運動器3セッション

座長：宇於崎 孝（びわこリハビリテーション専門職大学）

3-1　人工股関節全置換術患者における術後3ヶ月時の生活空間に影響を及ぼす因子
―術前・術後1週・術後1ヶ月・術後3ヶ月時での検討―

吉川 琢磨　大阪鉄道病院 リハビリテーション科

3-2　トレンデレンブルグ徴候を呈する人工股関節全置換術後症例に対する
筋力発揮率に着目した病態分析と介入の検討

西野 星陽　西大和リハビリテーション病院

3-3　腹臥位、股関節伸展位保持における股関節肢位変化が
股関節伸展筋群の筋活動に及ぼす影響について

伊藤 陸　六地蔵総合病院 リハビリテーション科

3-4　TKA 術後患者に対する大腿四頭筋の遠心性収縮を意識した
起立－着座動作が Trailing limb angle に及ぼす影響

髙山 絵莉香　りんくう総合医療センター リハビリテーション科

運動器４セッション

座長：田中 暢一（ベルランド総合病院）

4-1 胸椎椎体骨折後に受傷部位と異なる神経症状が生じた症例

生田 沙耶子　貴志川リハビリテーション病院

4-2 光学式歩行分析装置オプトゲイトを用いて腰椎変性疾患に対する後方除圧術前後比較

神澤 佑哉　河内総合病院 リハビリテーション部

4-3 大腿骨近位部骨折患者における術前のサルコペニアの有無が退院時運動項目 FIM に与える影響

井出 雅之　貴志川リハビリテーション病院

4-4 大腿骨近位部骨折で回復期病棟へ入院した患者におけるサルコペニア有症率と栄養状態の実態調査

井上 雄太　佐野記念病院

運動器５セッション

座長：磯田 真理（西川クリニック）

5-1 高校ダンス部選手における腰痛発生因子の検討

菊地 淳　大阪医療福祉専門学校

5-2 腰痛のない殿部痛に対し腰椎椎間関節に対する徒手理学療法が効果を示した１症例

増井 健二　堺若葉会病院

5-3 腰痛の有無が腰椎椎間板ヘルニア患者の多裂筋断面積に及ぼす影響

井上 大輔　関西電力病院

5-4 腰椎変性疾患における胸郭柔軟性と腰下肢機能との関連

小坂 健二　河内総合病院 リハビリテーション部

運動器６セッション

座長：三谷 保弘（関西福祉科学大学）

6-1 人工膝関節全置換術後の病棟内歩行器歩行早期獲得が在院日数に与える影響

津田 大輔　兵庫県立加古川医療センター

6-2 当院にて人工膝関節全置換術を実施した前期高齢者・後期高齢者の実態調査

横家 涼　近江八幡市立総合医療センター

6-3　術前後の取り組みによって早期の機能改善がみられた人工膝関節全置換術症例

中山 大輔　洛和会丸太町病院

6-4　両側全人工膝関節置換術後症例における
術後疼痛の病態に合わせた多角的介入の効果：症例報告

内沢 秀和　西大和リハビリテーション病院

運動器7セッション

座長：森 憲一（おもて整形外科・骨粗鬆症クリニック）

7-1　左後脛骨筋と脛骨神経間の滑走不全を改善することで、
左後脛骨筋筋力及びつま先立ち・歩行が改善した一症例

岡本 拓実　医療法人薫風会 西川クリニック

7-2　膝前十字靭帯再建術後の大腿四頭筋の筋力と筋萎縮の関連について
筋厚と骨格筋量を用いた検討

城谷 将輝　社会医療法人 平成記念会 平成記念病院

7-3　ACL 再建術後前後の筋力評価
―ST 法と QT 法の比較―

瀬口 貴一　大阪市立大学医学部附属病院

7-4　骨盤骨折を受傷し両腓骨神経麻痺を呈した患者における
装具の自己装着が活動範囲の拡大に繋がった一症例

田中 朗　堺平成病院

運動器8セッション

座長：今岡 真和（大阪河﨑リハビリテーション大学）

8-1　長期臥床により認知症症状を呈した腰椎圧迫骨折患者1症例に対する
多職種介入の試み

加古川 直己　岸和田リハビリテーション病院

8-2　高度認知症患者に対して視覚的プロンプトを用いた
立ち上がり練習の成功体験が移乗動作の介助量軽減に至った一症例

稲村 拓馬　医療法人 恵泉会 堺平成病院

8-3　歩行の自己効力感が低下した症例に対する
トレッドミルを使用した歩行練習の効果について

鍬田 幸輔　関西医科専門学校 理学療法学科

8-4　産後女性の体力・身体機能の回復

荒木 智子　医療法人純心会 パルモア病院

内部障害１セッション

座長：吉田 陽亮（奈良県西和医療センター）

1-1 2型糖尿病患者における当院外来教育プログラムの効果
～身体機能に着目して～

久保 德昌　兵庫県立姫路循環器病センター

1-2 当院救命救急センター入室高齢患者におけるフレイルの有無とその影響

松本 忠義　大阪市立大学医学部附属病院 リハビリテーション部

1-3 自己効力感が低下した顕微鏡的多発血管炎患者に対して
行動変容技法を用いた介入が有効であった事例

松本 開　宇治病院 訪問リハビリテーション

内部障害２セッション

座長：本田 憲胤（北野病院）

2-1 COPD 患者における過換気 IC 測定法の妥当性についての検証
～呼吸抵抗に着目して～

古河 琢也　京都民医連 あすかい病院

2-2 COPD による呼吸困難感に対して運動療法と並行し AKA-H を実施した一例

阪口 千尋　八尾徳洲会総合病院

2-3 術後の呼吸困難感に対し呼吸筋トレーニングを併用し、
症状の改善を認めた COPD 併存食道癌患者の１例

鳥本 真由　滋賀医科大学医学部附属病院

内部障害３セッション

座長：大西 伸悟（加古川中央市民病院）

3-1 高用量ステロイド投与中の高齢間質性肺炎患者に対し
低強度負荷の運動療法が有効であった一症例

上村 亮介　地方独立行政法人 市立吹田市民病院

3-2 地域在住高齢者の円背姿勢と咳嗽力、呼吸機能、身体機能の関係

武田 広道　訪問看護ステーション リハステージ

3-3 回復期リハビリテーション病棟に入院した COVID-19 重症例の
日常生活動作能力の経過

奥野 友和　大阪急性期・総合医療センター

内部障害４セッション

座長：佃　陽一（三菱京都病院）

4-1　びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に対して
キメラ抗原受容体導入 T 細胞療法を施行された２症例の理学療法経験

竹村　大樹　　兵庫医科大学病院 リハビリテーション技術部

4-2　高齢血液透析患者におけるサルコペニア罹患率と各診断項目の割合について

綿貫　央章　　社会医療法人 愛仁会 介護老人保健施設 つくも

4-3　心疾患の既往がある大腿骨転子部骨折患者に対して
負荷量と活動量の調整を行った一症例

南谷　壽文　　地方独立行政法人 市立吹田市民病院

内部障害５セッション

座長：中江　基満（滋賀県立総合病院）

5-1　徒手的理学療法を用いた排便障害へのアプローチ

永井　豊美　　京都逓信病院

5-2　回復期リハビリテーション病棟に入院中の運動器疾患患者における
Geriatric Nutritional Risk Index の変化が退院時 ADL に与える影響

桑田　一記　　貴志川リハビリテーション病院

5-3　足部感覚障害を有する糖尿病患者の動的バランス能力向上を目的とした介入

亀甲　健太朗　　地方独立行政法人 市立吹田市民病院

5-4　糖尿病患者のチェアエクササイズ実施が運動後の血糖値に及ぼす影響について

浅野　伝美　　近江八幡市立総合医療センター

生活環境支援１セッション

座長：西川　正一郎（葛城病院）

1-1　高位脛骨骨切り術後生じた下垂足に対してターボメドを用いることで
シャドーボクシングが可能となった一症例

奥田　正作　　清仁会 水無瀬病院

1-2　左脛骨天蓋骨折術後、骨髄炎を呈した症例に対する理学療法の経験

宮戸　涼介　　北出病院

1-3　創傷未治癒の左下腿切断患者に対して義足作製が有用であった一例

湯川　将太朗　　北出病院

生活環境支援２セッション

座長：坂野 裕也（清和園吉祥ホーム）

2-1 介護老人保健施設からの在宅復帰に関連する要因
～トイレを一人介助でできる膝伸展筋力の目標値～

松藤 直子　社会医療法人愛仁会 介護老人保健施設ひまわり

2-2 社会参加に対する介護予防教室の効果の性差
―男女に適した介入を目指して―

福西 優　西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション部

2-3 当院地域包括ケア病棟でのリハビリテーション対象者選定基準の設定と効果判定

坂口 英隆　浅香山病院

生活環境支援３セッション

座長：岡原 聡（大阪急性期・総合医療センター）

3-1 COVID-19による通所サービス利用自粛者の身体機能への影響：調査報告

奥野 大輔　株式会社フルーション リハビリ本舗事業部

3-2 訪問リハビリテーション利用自粛期間中の定期的な電話指導により、
生活機能低下を予防できた症例

塚川 亮祐　株式会社フルーション リハビリ本舗事業部

物理療法１セッション

座長：坂口 顕（兵庫医療大学）

1-1 回復期脳卒中片麻痺患者の大殿筋に対して
神経筋電気刺激の併用で歩行およびADLが改善した一症例

山田 崇博　大阪鉄道病院

1-2 運動失調を合併する脳卒中片麻痺患者に対する中殿筋・大殿筋の
機能的電気刺激の試み

近藤 加歩　医療法人友紘会 西大和リハビリテーション病院

1-3 第３腰椎圧迫骨折後の安静臥床による筋萎縮を予防し早期離床を図った一症例

長谷川 歩菜　高田上谷病院 リハビリテーション科

教育管理１セッション

座長：畑山 大輔（辻秀輝整形外科）

1-1 限局性学習症児の運動の困難さ及び運動介入に関する系統的レビュー

杉本 圭　森ノ宮医療大学 理学療法学科

1-2 TKA 術後リハビリテーションの PT1 年目に対する教育方法の違いとその効果

貴志 悠矢　りんくう総合医療センター リハビリテーション科

1-3 動作観察に関するシステマティックレビュー

松尾 浩希　森ノ宮医療大学 理学療法学科

教育管理２セッション

座長：貞末 仁美（介護老人保健施設しんあい）

2-1 経験年数と所属施設の違いによる理学療法技術
―重心移動―

岡山 裕美　大阪人間科学大学

2-2 本学における筆記試験成績と客観的臨床能力試験（OSCE）成績の関係性について

檜垣 奨　森ノ宮医療大学 理学療法学科

2-3 理学療法教育における客観的臨床能力試験と
CBT（Computer Based Testing）の関連性

高田 寛彬　学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療福祉専門学校 理学療法士学科

第60回近畿理学療法学術大会

抄　録　集

基 調 講 演

教育講演1［ 神経 ］

教育講演2［ 運動器 ］

教育講演3［ 痛み ］

教育講演4［ 嚥下 ］

教育講演5［ 代謝異常（糖尿病）］

教育講演6［ がん ］

教育講演7［ 地域（高齢者への運動療法）］

教育講演8［ 教育 ］

教育講演9［ スポーツ支援 ］

シンポジウム

理学療法版 SDGs パネル展示企画

一般演題（ポスター）

理学療法の臨床判断のパラダイムにおける イノベーションを目指して

木村 貞治
信州大学 医学部保健学科 理学療法学専攻 教授

基調講演では、「理学療法の臨床判断のパラダイムにおけるイノベーションを目指して」というテーマでお話をさせていただきます。このテーマは、「いのち輝く未来社会の理学療法デザイン～近畿からのイノベーション～」という本学術大会のテーマを受けて考えてみました。「イノベーション」とは、物事の「新機軸」「新しい捉え方」「新しい活用法」などと位置付けられ、新たな技術や考え方を取り入れて、新たな価値を生み出して社会的に大きな変化を起こすことを指すとされています。それでは、理学療法の臨床判断におけるパラダイムすなわち概念的枠組みにおけるイノベーションとは、どのような事柄なのかについて考えてみたいと思います。まずは、根拠に基づく実践（Evidence-based Practice, EBP）の概念を基盤として理学療法における臨床判断（clinical decision making）のパラダイムについて考えると、「①理学療法士の臨床能力（知識、技能、中立的な経験則）、②施設の環境（人的・物理的）、そして、③対象者や家族の意向・価値観・生活様式などの要素に、もう一つ、④質の高い臨床研究の実証結果であるエビデンス“も”加えて、目の前の対象者にとって最も適した評価・治療・指導の方針に関する判断を下すこと」と位置付けられると思います。このような臨床判断のパラダイムから考えた場合のイノベーションとは何かというと、決して真新しい事柄ではなく、上記のパラダイムにおける4つの要素を統合した臨床判断の「論理性」と「科学性」を卒前・卒後のシームレスな学習と臨床経験の中でより高めていくことだと思います。そのためには、①臨床能力としての専門的・学際的知識や、コニュニケーション・評価・治療・指導等における臨床的技能を高めるとともに、自身の経験則を可能な範囲で可視化していくことが重要となります。②施設の環境として、人的な面では、自身の臨床判断の妥当性に関して、先輩や同僚と活発な討論を重ねることが、部門内のチーム医療の質を高める上で極めて重要だと思います。また、物理的な面では、対象者に適した評価・治療機器を選択するとともに、できるだけ対象者の生活環境を想定した物理的な環境での評価や運動学習を展開していくことが大切です。③対象者や家族の意向・価値観・生活様式としては、それぞれのニーズ、そして、心情や信条に加え、生活環境などの背景因子を的確に把握することが大変重要です。④質の高い臨床研究の実証結果であるエビデンス“も”加えた臨床判断のためには、EBPの行動様式に基づいて、対象者の臨床像に近いエビデンス（できれば二次情報）を限られた時間の中で効率よく検索・収集・分析する能力を高めていくことが大切です。また、我が国の制度・文化・風土の下で行われた理学療法の新たなエビデンスを創出することも大変重要となります。

本学術大会が視座に据えた「いのち輝く未来社会」に理学療法が貢献していくためには、これらの4つの要素を統合した臨床判断の「論理性」と「科学性」を、個人として、そして組織として、より高めていくこと、また、地道な精進によって、その輝度を生涯をかけて高め続けていくことが大変重要な課題であると思います。基調講演では、基本的な内容ではありますが、これらの内容についてお話をさせていただきたいと思います。

木村 貞治（きむら ていじ）

学　歴

1981年　川崎リハビリテーション学院理学療法学科 卒業

1989年　工学院大学工学部第Ⅱ部電気工学科情報工学コース 卒業
学士（工学）

1997年　（韓国）順天郷大学校工科大学大学院修士課程電気工学科
制御工学専攻修了 修士（工学）

2000年　信州大学大学院工学系研究科博士後期課程修了 博士（工学）

職　歴

1981年　東京厚生年金病院リハビリテーション室 入職

1993年　信州大学医療技術短期大学部理学療法学科 講師

2000年　信州大学医療技術短期大学部理学療法学科 助教授

2002年　信州大学医療技術短期大学部理学療法学科 教授
信州大学医学部保健学科理学療法学専攻 教授

関連領域社会活動

一般社団法人 日本物理療法学会 理事

一般社団法人 日本アスレティックトレーニング学会 理事

公益財団法人 日本水泳連盟医事委員会連携組織日本水泳トレーナー会議 顧問

執筆書籍

- 木村貞治，高橋哲也，内 昌之（編集）：障害別　運動療法学の基礎と臨床実践．金原出版，東京，2020.
- 木村貞治，沖田 実，Goh Ah Cheng（編集）：物理療法学テキスト（第3版）
- シンプル理学療法学シリーズ．細田多穂（監修）．南江堂，東京，2021.
- 木村貞治（編集）：物理療法臨床判断ガイドブック．文光堂，東京，2007.

本講演に関連する論文

- 木村貞治：理学療法における評価の考え方と進め方．理学療法学，47（1）：93-101, 2020
- 木村貞治：EBPT の意義と実践方法．理学療法京都，45: 62-70, 2016.
- 木村貞治：EBPT の実践に向けて．理学療法科学，22（1）: 19-26, 2007.

第60回 近畿理学療法学術大会

大会長：中川 法一

事務局：第60回近畿理学療法学術大会 大会事務局
〒540-0028 大阪市中央区常盤町1-4-12
常盤セントラルビル301号
一般社団法人 大阪府理学療法士会 生涯学習センター内
TEL：06-6942-7233　FAX：06-6942-7211
E-mail：kinki60@pt-osk.or.jp

出　版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793　FAX：096-386-2025
https://secand.jp/

第60回 近畿理学療法学術大会事務局

〒540-0028 大阪市中央区常盤町1-4-12
常磐セントラルビル301号
TEL:06-6942-7233　FAX:06-6942-7211
E-mail:kinki60@pt-osk.or.jp